

ソーシャル・ディスタンシングと共に創るアジアの共同プロジェクト

『テラジアー 隔離の時代を旅する演劇ー』10月30日 キックオフ配信



2020年5月、日本のドラマトゥルク渡辺真帆とタイの演出家ナルモン・タマプルクサー（コップ）の呼びかけにより、演劇を専門とする国際アーティストユニット「テラジア」が結成されました。日本・タイ・ミャンマー・インドネシアからメンバーが続々と集まり、2023年までの長期展開を見据えてアジア各地で公演を計画。その第1弾としてチェンマイの山の中にあるワット・パラット寺院で『TERA Thailand』を発表します。



『TERA Thailand』の出演者たち、会場のワット・パラット寺院にて。中央は演出のコップ氏。

## TERAとは？

2018年に国際舞台芸術祭「フェスティバル/トーキョー」で初演された演劇『テラ』は、話芸や打楽を用いて、現代の諸問題を観客と共に見つめ、深める、インタラクティブな作品です。上演を通して現代人の信仰や死生観をあぶり出す『テラ』に共感を寄せた海外のアーティストたちが、コロナ下のオンラインでの対話から作品の基本構造を「輸入」し、自身の地域特有の価値観や歴史を反映した新しい『テラ』を作ろうと考えたことが、「テラジア（TERA × ASIA）」の出発点です。

『テラ』日本初演は東京の西巢鴨・西方寺（浄土宗）、翌2019年にはアフリカ・チュニジアのカルタゴ演劇祭に招聘され、元教会である劇場などを含む3都市を巡演しました。国内では2021年2月に京都の興聖寺（臨済宗）のための新作を公演予定です。



### 初演情報

<https://www.festival-tokyo.jp/18/program/tera.html>

## 日本にしながら目撃できる

観光旅行が困難な今、「隔離の時代を旅する演劇」をコンセプトに、4年間の時間をかけて生み出される様々なバージョンの『TERA』をインターネット上で楽しむことができるのが本プロジェクト最大の魅力です。ホームページは10月20日（火）にオープン。上演映像は日本語・英語字幕つきで後日公開され、視聴できるように

上演に先駆け、公式noteでは**タイのメンバー紹介**や**トークイベントの情報**を発信しています。



HP（準備中） <https://terasia.net/> note [https://note.com/terasia\\_jp](https://note.com/terasia_jp)

Facebook <https://www.facebook.com/terasia.jp> Twitter [https://twitter.com/TERASIA\\_JP](https://twitter.com/TERASIA_JP)

## オンライン上映会+トークイベント

日本初演を創作した坂田ゆかり[演出]、稲継美保[俳優]、田中教順[音楽]、渡辺真帆[ドラマトゥルク]が西巢鴨・西方寺から配信するトークショー。日本チームにとって初見となる最新のチェンマイ公演の映像を参加者と一緒に鑑賞し、アフタートークは創作のプロセスなど、タイチームとの質疑応答を交えながら日タイ同時通訳でお送りします。

2020年10月30日（金） 20:00～ Zoomウェビナー配信

チケット予約ページ <http://bit.ly/terasia1030>



## 今後の展開（予定）

2020年10月：『TERA Thailand』 チェンマイのワット・パラット寺院

2021年 2月：『テラ 京都編』 京都・興聖寺

2021年12月：『TERA Myanmar』 バガンの寺院

2022年： 2020～2021年の展開次第で、他のアジア諸国で制作を検討。候補地はインド、マレーシア、ベトナム、台湾、シンガポール等。同時に日本の新バージョンも制作交渉中。

2023年： 『TERA Indonesia』

『TERASIAサミット』…プロジェクトの集大成として、各バージョンのアーティスト・関係者が会するイベントを開催

## メンバーからのコメント

### タイ



ナルモン・タマブルックサー

アートは病気のように「伝染」できるのでしょうか？ 何を介して、どのような形態で、いかなる経路で広がるのでしょうか？ アーティストは「キャリア」になることができるのか？ 伝染したアートは変異するのか？ どんな変異が起きるのか？ 時間と共に、また新しい空間でどのように進化するのか？ アートが文化を超えて伝染するとき、言語や信仰、アイデンティティの壁を崩すことができるのか？ 人間の本質、共通の価値を明らかにできるのか？ 世界的な健康危機において、アートの感染はどのように社会に貢献できるのか？…頭の中を巡るたくさんの問いを、この旅を通して探って行きます。

### ミャンマー



ズン・エイ・ピュー

ミャンマーには寺が多く、寺院の金色から「黄金の土地ミャンマー」とも呼ばれます。人はなぜ寺に行き、そこで何をしているのでしょうか。人それぞれですが、信仰心は主な理由の一つでしょう。どの宗教でも、信仰心は柱です。人は恐怖や脅威を感じる時、救いを求め、信仰心を強めます。一方、人は誰もがやがて死ぬとわかっていながら、その事実を忘れ、自分の死はまだ来ないと思いがちです。前もって死について考え、準備する人は多くありません。TERAは生と死の両方、そして人々の信仰を扱います。このような作品に対するミャンマーの人たちの反応、応答を探求することに興味があります。TERA Myanmarでは、火葬場のそばの葬儀場でパフォーマンスをすることを考えています。

### インドネシア



ディンドンW.S

TERASIAプロジェクトへの関心の動機は三つあります。

1. 国・民族を超えた文化的連帯のビジョン
2. 人間にとって真にアクチュアルなものへの興味
3. COVID-19危機への応答 …インドネシアの人々は、過去の歴史と未来についてももっと関心を持つべきです。今日の状況はよい教訓になります。今は内省の時間です。経済のみを優先せず、人間と自然を守っていく重要性を再認識するときです。

### ■お問い合わせ

TERASIA JP事務局 Eメール [terasia\\_info@yahoo.co.jp](mailto:terasia_info@yahoo.co.jp)

担当：合同会社UPN 坂田・渡辺